

たねのまきかた

(東京書籍「新しい理科 3」p4~5)

植物のたねを観察し、形や大きさを記録するとともに、正しい手順と方法でたねをまくことができる。

「栽培用の土」を準備しよう

<用意するもの(学級または学年)>

赤玉土

赤土を乾燥させて砕いたもの。排水性に優れている。養分は含んでいない。



腐葉土

落ち葉を腐らせてできた土。養分、水分、地温を保つ。



パーミキュライト

ひる石を高温で焼いて作った園芸用の土。肥料成分を含まない。



パーライト

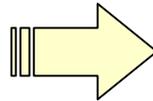
真珠岩を砕いて、高温で焼いたもの。保水性、通気性に優れている。



赤玉土、腐葉土、パーミキュライト、パーライトは、いずれもホームセンターで購入可

「栽培用の土」のつくりかた

腐葉土と赤玉土を1:1もしくは2:1の割合で混ぜる。



パーミキュライトやパーライトを少量混ぜる。



【写真1】

【写真2】

【写真3】

プランターに腐葉土1/2袋(約7リットル)を入れたところ。

【写真1】の腐葉土に、ほぼ同量の赤玉土を加えたところ

【写真2】の土に、パーミキュライト(約1リットル)とパーライト(約1リットル)を加え、かきまぜたところ

たねを準備しよう



ハウセンカのたね



ヒャクニチソウのたね

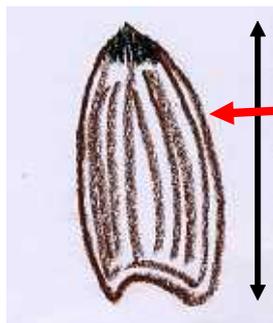
記録カードに、たねの実物をテープで貼っておくと、あとで大きさを比較できるね。



たねを観察しよう

ヒヤクニチソウのそだちかた

4月20日 はれ 岩手太郎



気づいたこと

- ・ほそながい形をしている。
- ・色は、こいちゃいろ。
- ・かたくてざらざらしている。

思ったこと

- ・たねからどうやってめがでてくるのだろう。
- ・早くたねまきをして育ててみたい。

<記録カードのかき方>

月日、天気、名前など必ず書くように習慣づける。

スケッチは、中心に大きくはっきりと書く。

実物をテープで貼っておくと、その後の大きさを比べる時に役立つ。

大きさ、形、色、さわった感じなど、五感を通して感じたことを記入す

観察後に思ったことや考えたことを文章で記入する。

たねをまこう



<用意するもの(個人)>

ハウセンカのたね、ヒヤクニチソウのたね、栽培用ポット、園芸用名札、

<用意するもの(グループ)>

移植ごて、じょうろ、栽培用の土



留意点

<たねのまきかた>

栽培用ポットの底穴をふさぐように赤玉土を入れてから、栽培用の土を入れる。【写真1】

指で穴を開け、たねを入れる。【写真2】

土を少しかけ、土がかわかないように、ときどき水をやる。【写真3】

<失敗しないポイント>

ハウセンカ、ヒヤクニチソウともに発芽率が高いが、100パーセントではない。自分のたねが発芽しなかったという児童に、あとであげる目的で、余分に種をまいておく。

発芽温度は、ともに20くらい。4月は発芽温度の達しないことも多いので、室内に置く等の工夫が必要である。

「植物のからだをしらべよう」で観察するフウセンカズラのたねも、この時にまいておきましょう



【写真1】



【写真2】



【写真3】

めのかんさつ

(東京書籍「新しい理科 3」p6~7)

芽ばえのようすを観察して記録し、形や大きさなどの特徴や芽ばえの共通性をとらえる。

めをかんさつしょう



ハウセンカ



にているところ

- ・初めに2枚の葉(子葉)がでてくること
- ・子葉の間から新しい葉が出ていること



ヒャクニチソウ

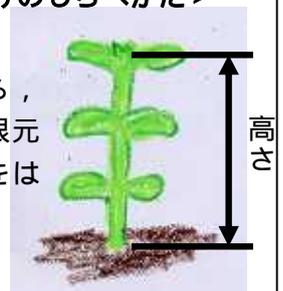


ちがうところ

- ・大きさ(ハウセンカの方が大きい)
- ・くきの色(ハウセンカの方は赤っぽい)

<草たけのしらべかた>

土の表面から、新しい葉の根元までの高さをはかる。

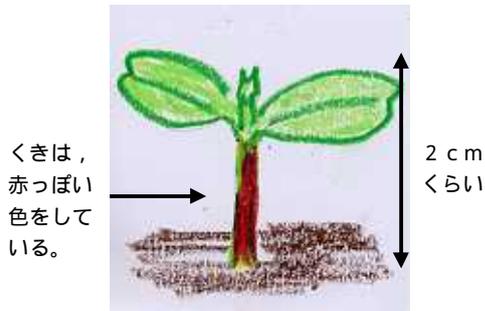


3年生の理科指導のキーワードは「比較」です。ハウセンカとヒャクニチソウの芽を比べて、気づいたことを記録させましょう。

めを記録しよう

ハウセンカのそだちかた

5月16日 はれ (岩手 太郎)



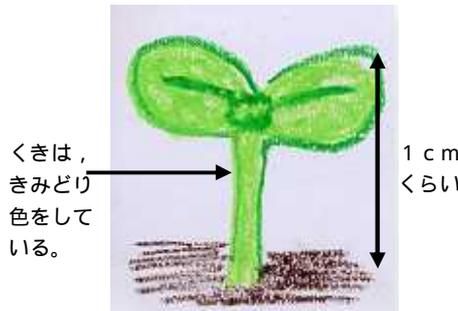
気づいたこと

- ・子葉は2まいで、おなじくらいの大きさをしている。まん中に、小さい葉のようなものがある。くきは、赤っぽい色をしている。
- 思ったこと

- ・たのしみにしていたためがでてきた。このあと、どんな形の葉がでてくるのかな。

ヒャクニチソウのそだちかた

5月16日 はれ (岩手 太郎)



気づいたこと

- ・子葉は2まいで、まん中に小さい葉のようなものがある。くきは、きみどり色をしていて、ほそ長い。
- 思ったこと

- ・子葉が2まいあるところがハウセンカとにている。ハウセンカとくらべると、くきの色がちがうことがわかった。

絵は、スペースをいっぱい使って、大きくかくように指導しましょう。

